

會務報告

第24卷第3號 昭和13年3月

通常總會記事

昭和13年2月14日午後5時より東京市麹町區丸ノ内3丁目4番地帝國鐵道協會に於て通常總會を開催せり。

出席者：520名（委任状共）

會長大河戸宗治君議長席に着き開會を宣し下記議事に就き出席會員の承認を得たり。

1. 昭和12年度事業報告（本號會告欄参照）
2. 昭和12年度決算報告（本號會告欄参照）
3. 役員選舉の結果報告

投票人員 750名

會長 當選（改選） 718票 辰馬鎌藏君
次點 4票 八田嘉明君

2票 草間偉君

2票 平山復二郎君

以下略す。

副會長 當選（改選） 696票 平山復二郎君
次點 4票 佐藤利恭君

4票 谷口三郎君

3票 宮本武之輔君

3票 物部長穗君

2票 衣斐清香君

2票 原全路君

2票 藤井眞透君

以下略す。

常議員 當選（改選） 685票 高橋嘉一郎君

同 685票 山崎匡輔君

同 680票 高橋三郎君

同 674票 伊藤剛君

同 674票 岡田信次君

同 674票 菊池明君

同 664票 川口裕康君

同 657票 佐野俊男君

同 652票 松田全弘君

同 631票 村橋恒造君

次點 16票 青木楠男君

15票 吉岡計之助君

19票 青木保雄君

11票 成瀬勝武君

10票 今井哲君

9票 大石義郎君

9票 松田勘次郎君

8票 砂治國良君

8票 井上隆根君

8票 岩崎富久君

8票 内村三郎君

8票 岡田賀君

8票 水谷 鏘君

以下略す。

常議員 當選（補缺） 645票 青木保雄君

次點 6票 村橋恒造君

2票 久保 誠君

以下略す。

4. 土木學會規則改正に關する件

土木學會規則第4條第3項改正案を上程し次の如く出席會員の承認を得たり。

「代表者ノ員數ハ1級10人以内、2級7人以内、3級3人以内トス」

5. 応召會員に對し特定期間會費負擔免除の件を上程し次の如く出席會員の承認を得たり。

「支那事變ニ依ル応召會員、准員、學生員ニ對シ土木學會規則ノ規定ニ拘ラズ特ニ出征期間中會費ノ負擔ヲ免除スルモノトス」

以上を以て議事を了し、次に下記昭和12年度優秀論文の著者に對し土木賞牌の贈呈を行ふ。

昭和12年度優秀論文及著者

清水港岸壁の復舊並に補強工事に就て（土木學會誌 第23卷第9號所載）

會員 鮫 島 茂君

會員 黒 田 靜 夫君

次で大河戸會長の講演（別項）あり午後6時20分閉會せり。

總會終了後有志晚餐會を開催し午後8時散會せり。

役員會記事

第24回理事會（昭.13.1.24.）

出席者：大河戸會長、辰馬、新井兩副會長、宮本、金子、關、沼田、榎木各理事、金森文化映

査委員會委員長，小野寺庶務主任，朝倉會計主任，糸川編輯主任

報 告

1. 日本工学会評議員會議事を報告せり。
2. 關西支部第1回役員會議事（幹事長島崎孝彦君は辭任し後任として萩原基治君就任其他）を報告せり。
3. 北海道支部幹事長に鷹部屋福平君，幹事に林猛雄，小川讓二兩君就任せり。
4. 東北支部増員商議員に上山經亮，小出豊治郎兩君就任，熊田隆治君転勤に伴ふ後任として佐々木銆君就任せり。

議 事

1. 役員選挙投票の開票を2月3日に行ふこととせり。
2. 役員選挙投票の開票立會役員は次の通りとせり。
新井副會長，金子，榎木兩理事，高橋，淺間兩常議員
3. 昭和12年度土木賞牌贈呈優秀論文は次の通り選定せり。

土木学会誌第23巻第9號所載

清水港岸壁の復舊並に補強工事に就て

著者 會員 鮫 島 茂君
會員 黒 田 壽 夫君

4. 昭和12年度事業報告及決算報告を別紙（省略）の通りとす。
5. 東北支部昭和12年度決算報告を別紙（省略）の通り承認することとせり。
6. 土木技術家の信條は別紙（省略）修正案の通りとし委員長の了解を得ることとせり。
7. 陸軍造兵廠大阪研究所及日本大学工学部図書館と會誌を交換することとせり。
8. 中，北支に於ける土木計畫調査員派遣に關する件並に文化映畫委員會より建築に係る調査員派遣の場合映畫撮影設備携行に關する件は次回理事會に於て更に協議することとせり。
9. 土木技術者相互規約調査委員會の事業終了に就き之を解散しその他の委員會解散に就ては幹事と打合せることとせり。
10. 伊藤喜一郎君外13名を會員に，井上芳徳君外48名を准員に，安藝元清君外59名を學生員に，大阪北港株式會社を特別員に入會を，准員大寺廣君を會員に，學生員高木謙君外1名を准員に転格承認せり。

第25回理事會（昭.13.2.8.）

出席者：大河戸會長，辰馬，新井兩副會長，宮本，金子，關，榎木各理事，青山前會長，小野寺庶務主任，朝倉會計主任，糸川編輯主任

報 告

1. 役員選挙の結果別紙（省略）の通り當選せられたり。
2. 日本工学会評議員會議事を報告せり。
3. 土木学会關西支部長及商議員選挙の結果次の如し。

支部長（新任）島崎孝彦君

商議員（新任）稻浦鹿藏君（留任）宮内義則君

“ “ 鈴木義一君 “ 石井颯一郎君

“ “ 鈴木角一郎君 “ 青山秀雄君

“ “ 林千秋君 “ 萩原基治君

“ “ 岩井芳通君 “ 岩崎雄治君

“ “ 石原藤次郎君 “ 笈 斌 治君

商議員（新任）西 義一君

“ “ 三好貞七君

幹事長 “ 萩原基治君

庶務幹事（留任）鮫島午吉君

會計幹事 “ 柴田辰之進君

4. 土木学会東北支部役員會議事を報告せり。

議 事

1. 日本工学会次期本會選出評議員は眞田秀吉君に重任を交渉することとせり。
2. 日本工学会申出に係る次の事項に關しては異議なきことを回答することとせり。
(1) 「工学論文要録」を「工学と工業」と改題及内容改善に關する件
(2) 工業用語全集刊行に關する件
(3) 現在の工業用語統一調査委員會を解散し別に常置委員會設置に關する件
3. 萬年會寄附工業奨励資金（昭和12年度分）受領候補者を本會より推薦の件は次回更に協議することとせり。
4. 鋼橋示方書調査委員會特別委員に次の諸君を依頼することとせり。
鷹部屋福平君，高橋逸夫君，三瀬幸三郎君
5. 土木技術者の信條及實踐要綱修正案に就き審議し別紙（省略）の通り決定發表することとせり。
6. 時局對策研究機關設置に關しては次回更に協議することに申合せたり。

第 12 回常議員會 (昭. 13. 1. 26.)

出席者：大河戸會長，辰馬，新井兩副會長，宮本，金子，關，阿曾沼，海老，河口，瀨，中村各常議員，小野寺庶務主任，朝倉會計主任，糸川編輯主任

報 告

1. 日本工學會評議員會議事を報告せり。
2. 關西支部第 1 回役員會議事を報告せり。
3. 北海道支部幹事長及幹事就任を報告せり。
4. 東北支部増員商議員及熊田商議員転勤に依る後に佐々木銃君の就任を報告せり。
5. 陸軍造兵廠大阪研究所及日本大学工学部図書館と會誌を交換することとせり。
6. 入退會を別紙(省略)の通り承認せり。
7. 2 月中諸會合日別紙(省略)の通りとせり。

議 事

1. 役員選舉投票の開票を 2 月 3 日行ふこととせり。
2. 役員選舉投票の開票立會役員を次の通り決定せり。

新井副會長，金子，榎木兩理事，高橋，淺間兩常議員

3. 昭和 12 年度土木賞牌贈呈優秀論文は次の通り決定せり(省略)。
4. 昭和 12 年度事業報告及決算報告は別紙(省略)の通りとし通常總會の承認を得ることとせり。
5. 東北支部昭和 12 年度決算報告別紙(省略)の通り承認せり。
6. 土木技術者の信條草案に就き審議し修正に就ては理事會に一任することとせり。

臨時常議員會 (昭. 13. 2. 3.)

昭和 12 年 1 月 26 日開催の常議員會に於て選任せられたる役員立會の下に本會々議室に於て役員選舉投票の開票を行ひ其の結果總會記事の如し。

總 務 部 記 事**第 10 回土木學會文化映畫委員會** (昭. 13. 1. 17.)

出席者：金森委員長，金子，五十嵐，片平，草間各委員，小野寺庶務主任

1. 前回の委員會で片平委員に一任した土木に関する映畫臺帳を作成のため各方面に照會すべき依頼狀及調査表は別紙(省略)の通り決定し直ちに土木學會地方委員宛送附調査を依頼することとせり。

2. 北支及中支に於ける土木事業計畫に關し土木學會より調査員を派遣する場合は映畫撮影の設備を携行し映畫に依り計畫樹立に一層の効果あらしむると共に土木技術者の活動を映畫に記録することは事変に關する斯界の記念事業としても洵に有意義なり，依て之を會長に建議することを決議し，その草案は金子委員に一任せり。

3. 土木學會誌を通じて土木に關する映畫シナリオを募集することとせり。

編 輯 部 記 事**第 2 回編輯委員會** (昭. 13. 2. 5.)

出席者：關委員長，伊藤，大岡，大川，太田尾，岡崎，齋池，廣瀬，安宅各委員，糸川，中川兩編輯部

協議事項

1. 第 24 卷第 2 號所載の工事寫眞，彙報，抄録，時報，會員の頁欄に對する謝禮を決定す。
2. 第 24 卷第 3 號へ下記を追加す。

會長講演：戦争と土木(會長 工学博士 大河戸宗治)

討 議：各種断面形状下水渠の共通勾配式に就て(會. 工. 淺野好; 著. 會. 工. 北澤貞吉)，渠内の磨損乃至沈澱を生ぜざる勾配に設置したる各種断面形状渠の流量式に就て(會. 工. 淺野好; 著. 會. 工. 北澤貞吉)

抄 録：築堤に對する土質試験方法，最近に於けるドイツ鋼橋界大觀，支材を用ひない 817 呎の塔，カリフォルニア地方の大利水計畫，心壁の薄い高土堰堤，Raritan 河の淨化計畫

時 報：相模川大堰堤築造計畫，都市計畫關係決定事項

會員の頁：土木報團聯盟結成に就て

新刊紹介：影響線によるラーメンの計算

3. 第 24 卷第 4 號登載記事を下記の如く決定す。
論說報告：大阪市高速鉄道に於ける小野式隧道工法工事報告(會. 工. 光井三郎)

彙 報：General Design of the Port of Bangkok(港灣協會調査部)，撫順セメント使用に關聯して失敗の経緯(會. 西畑常)，新設コンクリート構造物實験室に就て(會. 工. 内山實)，伊豫鉄道電氣株式会社第 3 面河發電所工事概要(准. 古田一三六)

抄 録：海を越えてキウエストに至る道路，水

底自動車隧道の各種工法、河川堤防のアスファルト固め工、Ruby 堰堤の設計に就て、コンクリートコアの試験、コンクリートのプラスチックフロー、地下埋設鋼管の壁厚決定法、倫敦港の發展、破壊せる Marshall Creek 土堰堤、土木省設置の必要、過去 20 年間の地域制、フランスの國道建設に關する現今の問題、ダントツヒ港に於ける礫石及石炭荷役設備、容量 1500t のサイロ、イタリーの道路及交通標識

東 亞 部 記 事

東亞調査委員會 (昭. 13. 1. 15.)

出席者： 直木倫太郎君、山岸貞一君、中川委員長、内海、内田、金森、榎木、鈴木、高橋(三)、谷口、森田、山口、山田(隆)、山崎各委員、新井副會長、金子、關、沼田、阿曾沼、中村各常議員、那波、名井、眞田、久保田、青山各前會長、佐藤、藤井、平山各前常議員、太田尾編輯委員會幹事、糸川編輯主任、小野寺庶務主任

會 場： 銀座西 8 丁目エーワン本店

本會東亞調査委員會は滿洲國技監直木倫太郎、同山岸技正兩氏の來朝を機とし其の歓迎午餐會を兼ね委員會を開催せり。

先づ中川委員長起つて、本午餐會の賓客たる兩氏に對し、本會員の渡滿視察者が多大の歡迎及便宜を受けつゝある事に就きて謝辭を述べ、併せて其の御健闘を稱ひ、本日共に午餐をなし得る事の光榮を述べ、続いて東亞部の事業報告として、支那留學生に對し官立大學、專門學校は事實上これが入学に多大の不便あるに鑑み、その對策として交通大學を設立するの案を立て着々これが計畫を進行せしめつゝある狀況を説明す。



次に直木技監は本日の 歡迎の謝辭を述べられたる後、彼地に於ける諸事業の活潑なる進歩の狀況は曩に内務省技術官一行の視察に明かなる事故これが説明を省略し、その辛勞生命を賭すの體驗談を山岸技正に聽る、尙滿洲國に於ける土木事業は第 2 階程に入り治水、發電水力等の利水、道路の鋪裝、港灣の修築等が今後の主たる工事にして既に着手せるものあるを附加し、會員諸氏の渡滿を心より希望せらるゝ旨を述べて着席す。

山岸技正は魁偉な体を黒の制服に包み、潑刺たる元氣で次の如く語る。幾度か生死の境を彷徨しつゝも、燃ゆる如き國家建設の熱意に満ち、固き信念の下に軍部と一致協力して常は勤勞奉仕に、事ある毎に飛彈の下を潜りてその任務を遂したる事、及土木技術者が眞に文化建設の指導者にして、今後は如何なる場合にも道義國家としての覺悟の必要あるべき事を強調して着席す。

更に東亞調査委員會幹事山口博士は、本會幹事としてその事業の期待に副ふ様に進行せざる事の責を詫び、続いて支那視察談を語る、あらゆる苦難と戦ひつゝ奮闘する 皇軍の努力を體驗に徴して實例と共に擧げ、支那に於ける全土木事業が強固なる統制の下に行はれる事を道路、都市計畫等の點より見ても認めらるゝ事を述べ、今後この方面に進出すべき吾が土木技術者の奮起を促す。

以上を以つて午後 3 時過ぎ本日の有意義なる午餐會を盛會裡に閉づ。

土木學會關西支部記事

第 1 回役員會 (昭. 13. 1. 14.)

出席者： 高西支部長、島崎幹事長、柴田幹事、寛、榎澤、奥中、澤井、岩崎、宮内、荻原各商議員、後藤、島、岩田、松島、清水各前支部長、山本主事

議 事

1. 本年度大會に報告すべき會務の件
2. 幹事長島崎孝彦君辭任に付後任に荻原基治君を依頼せり
3. 主事手當の件

第 2 回役員會 (昭. 13. 2. 7.)

出席者： 島崎支部長、荻原幹事長、柴田、鮫島兩幹事、岩井、鈴木(義)、鈴木(角)、石原、

稻浦, 林, 西各商議員, 松田, 榎澤兩前商
 議員, 高西, 清水, 後藤, 島, 松島, 岩田
 各前支部長, 山本主事

兩幹事, 田淵, 岡崎(代) 兩商議員, 菊田
 主事

議 事

1. 13 年度事業計畫の件
2. 土木事業計畫審査委員會設置の件
3. 工事ニュース編輯委員會設置の件
4. 土木技術者資格檢定規則案作成委員設置の件
5. 特別員入會勧誘に関する件

第 11 回大會 (昭. 13. 1. 26.)

出席者: 114 名

議 事

1. 昭和 13 年度收支豫算並に昭和 12 年度事業及
 決算を報告之を承認し次で役員選舉を行ひ別記の通り
 當選せり。

以上の議事を了し次で田島房太郎君及島井信君の講
 演ありたり。

土木學會東北支部記事

第 3 回役員會 (昭. 13. 1. 28.)

出席者: 鶴見支部長, 三島幹事長, 中島, 藤田(代)

議 事

一般會務を報告し次で下記の事項を決議せり。

1. 講演會, 講習會, 座談會, 見学等を 6 縣下適當
 の地に於て開催し約 3 ヶ年にて一巡する様計畫する。
 こと
2. 13 年度實施方に關する件

日本工學會記事

○昭和 13 年 1 月 26 日日本工學會評議員會を開催
 し一般會務を報告し次で下記の件を決議せり。

1. 昭和 13 年度豫算の件
2. 工学論文要録に關する件
3. 工学用語集編纂發行に關する件
4. 用語調査委員會設置に關する件

そ の 他 記 事

○昭和 13 年 2 月 1 日土木學會誌第 24 卷第 2 號
 を發行成規の手續を了し全會員に配布せり。

入 會 及 転 格 會 員

特 別 員 (入 會)

大阪北港株式會社 水野鷗之助 林 千秋 黒田作之進 小林彦次 矢次福五郎 2 級

會 員 (入 會)

伊藤喜一郎君 仙鉄青森保線事務所	小林末廣君 秋田縣平澤港修築事務所	豊嶋正一君 仙鉄盛岡保線事務所
小川藤三郎君 仙鉄盛岡保線事務所	小林勇藏君 秋田縣湯澤土木事務所	中澤七太郎君 "
小山内文雄君 仙鉄仙臺保線事務所	佐藤武三君 仙鉄仙臺保線事務所	野元吉哉君 鐵道會秋田建設事務所
岡本増成君 北海道帝大工学部構造工 学研究室	澤田詮亮君 北海道帝大工学部水工学 研究室	松島 甫君 鐵道會秋田建設事務所
木村政次君 日立製作所龜戸工場	下間 伸都君 大阪市役所水道部給水課	

准 員 (入 會)

井上芳穂君 秋田縣湯澤土木事務所	尾崎成二君 合資會社中村組	鎌田 謙君 仙鉄青森保線區
伊佐政次郎君 八幡市役所土木課	大瀧吉郎君 都市計畫山形地方委員會	川島恭平君 宮城縣廳土木部道路課
伊藤正元君 宮城縣廳土木部道路課	大沼定八君 福島縣石川土木監督所	川村克實君 茨城縣廳部川改良事務所
池田幸之助君 東京市役所港灣部技術課	大森 輝君 福島縣廳土木課	國分 理君 福島縣廳土木課
池谷一雄君 金澤市役所都市計畫	大谷藤男君 大阪市役所水道部	佐藤源吾君 宮城縣品井沼水害豫防組 合
内田政義君 福島縣廳土木課	太田武三郎君 秋田縣廳土木課	坂本眞一君 秋田縣大曲土木事務所
惠土 清君 内務省青森港修築事務所	落合 伸治君 福島縣三春土木監督所	酒井耕作君 滋賀縣廳地課
小澤正義君 岐阜縣廳土木課	嘉戸茂金君 東京市役所土木局道路管 理課	關 周 三君 東京府第三道路出張所

田邊 保君 宮内省審林局
 田村 康君 大阪市役所水道部
 高島 澄君 滿洲國交通部齊々哈爾士
 高橋 勇君 不建設處
 竹谷 蕪君 福島縣若松土木監督所
 千葉 清君 福島縣若松土木監督所
 中湯 秀雄君 福島縣若松土木監督所
 野田 秀夫君 東邦電力株式会社
 平栗 保平君 日立製作所龜戸工場

廣瀬 郷司君 鉄道省秋田建設事務所
 布留川 忠君 東京府第三道路出張所
 藤本 小太郎君 鉄道省秋田建設事務所
 松坂 秀雄君 北海道帯大工学部構造工
 松本 七郎君 学研究室
 三浦 宜雄君 福島縣三春土木監督所
 宮川 勇君 山形縣土木課
 宮田 春治君 滿鉄々道研究所大連分所
 村越 耶麻二君 滿洲國交通部齊々哈爾士
 土木建設處
 仙鉄工務部改良課

村田 健吾君 奉天省公署土木總工務科
 村田 照雄君 滋賀縣總耕地課
 森 廣厚 德君 八幡市役所土木課
 横堀 義美君 仙鉄盛岡保線事務所
 吉田 四郎君 東京市役所港灣部技術課
 渡邊 重雄君 福島縣土木監督所
 古屋 昇平君 福井市土木課

学 生 員 (入 會)

安藝 元清君 京都帝大
 荒井 椿君 北海道帝大
 池田 英三郎君 "
 遠藤 次雄君 仙臺高工
 大坪 操君 熊本高工
 岡本 誠君 名古屋高工
 賀 永昌君 京都帝大
 金子 喜太郎君 北海道帝大
 神田 九思男君 京都帝大
 河野 巖君 "
 北川 鈴二君 北海道帝大
 工藤 忠夫君 "
 栗林 隆君 "
 笹川 彰一君 山梨高工

下山 田佐久彌君 北海道帝大
 諏訪 貞雄君 "
 鈴木 嘉乃雄君 山梨高工
 鈴木 隆吉君 北海道帝大
 田部 井龍男君 名古屋高工
 高橋 清吉君 北海道帝大
 高橋 健君 京都帝大
 高橋 博君 "
 竹内 益雄君 "
 都築 五九男君 名古屋高工
 土屋 信夫君 "
 徳 嵩久人君 北海道帝大
 中田 篤君 京都帝大
 温 盛正雄君 北海道帝大

福井 博明君 名古屋高工夜学部
 藤原 孝君 京都帝大
 増田 常利君 名古屋高工
 松居 正次君 北海道帝大
 森下 卓也君 京都帝大
 山崎 勝雄君 仙臺高工
 山田 輝雄君 名古屋高工
 伊地 知堅一君 東京帝大
 池田 保君 京都帝大
 石井 俊三君 東京帝大
 須田 義臣君 "
 宮武 通君 "

會 員 (転 格)

大寺 廣君 八幡市役所土木課

准 員 (転 格)

高木 蕪君 滿洲國交通部道路司地方
 工事科

古閑 正孝君 北海道釧路築港事務所

土木学会々員數

(昭. 13. 1. 24. 現在)

會 員	准 員	学生員	特別員	賛助員	合 計
2980	3087	702	23	21	6813

會 員 高橋辰次郎君 の訃報に接す、本會は恭しく哀悼の意を表す

准 員 川島農一君 は今次の支那事変に於て名譽の戦死を遂げらる、本會は恭しく哀悼の意を表す

准 員 豊村哲夫君 の訃報に接す、本會は恭しく哀悼の意を表す

学生員 高橋健二君、宮川市太郎君 の訃報に接す、本會は恭しく哀悼の意を表す

通常總會有志晩餐會

總會終了に引続いての有志晩餐會は午後7時帝國鐵道協會の食堂に開催、會するもの新舊會長、役員及會員有志の38名で極めて和氣霽々の裡に時局下の前途益々多端なる本學會の使命を壽ぎつゝ宴を進めた。先づ新井副會長起つて今回新に選任せられたる役員諸氏に御挨拶すると冒頭し、昭和12年も本日を以つて滞りなく諸事を終了した旨を述べ、顧みれば昨1年間は實に内外共に多事なる1年であつて、春には本會最初の試みである關西支部主催第1回學術講演會を始めとして、東北、北海道各支部の設立を見、財政方面に於ては財政調査委員の御努力によつて特別會員及普通會員の増加あり、發展途上にある本學會としては誠に多忙なるものありたる事の次第を述べ、この間に於ける前會長大河戸博士の御努力に對しては一同に代りて深く感謝の意を表明せらる。続いて新會長辰馬鎌藏氏を紹介し既に2年間本會の副會長として在任され今回名譽ある會長に推戴せらるゝに至りたること、及新副會長平山復二郎氏を紹介し兩者共に本會のため大いに

御盡力あらん事を要請し、又舊役員に對して過ぐる2年間の並々ならぬ御骨折に深甚なる謝意を述べて送迎の辭となし着席す。

次に前會長大河戸宗治氏起つて舊役員を代表して本會の事業が年々益々盛大になりつゝあるは誠に慶賀に堪えぬ所であり、これ一重に前會長の方針を踏襲したるの結果であり、會員各位の絶大なる援助によるものであつて、無事に職責を完うし得た事に對して各位に謝する旨の極めて謙讓なる挨拶の後着席す。

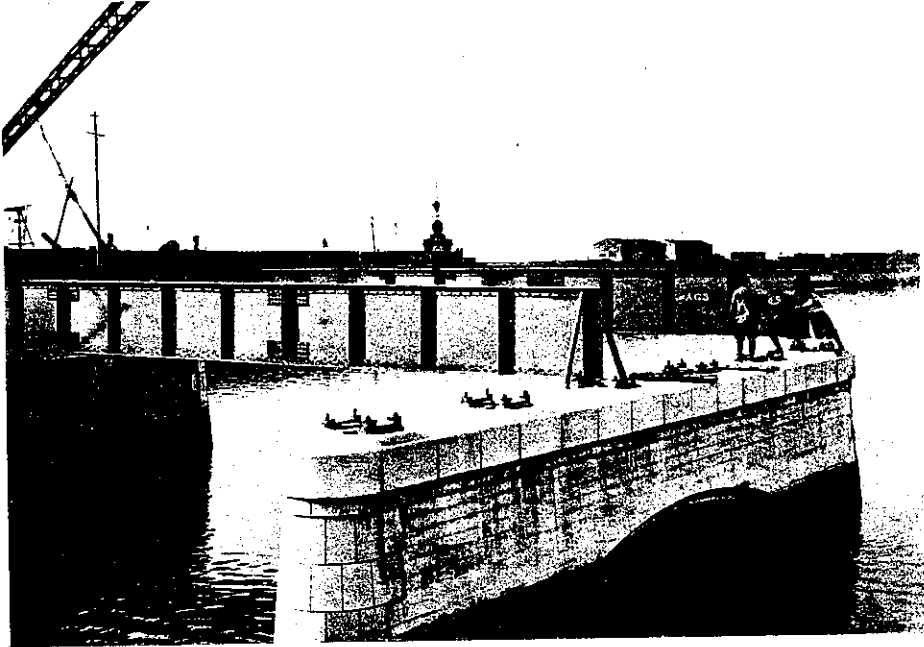
更に辰馬新會長は新役員の代表として起ち、今回の選挙によつて各々が新役員に就任せるに就いては本會のため粉骨碎身の努力を致す覺悟なるにより會員諸氏の御指導を賜らんことを切望し、日支事変が目下益々擴大し、雜複になりつゝある一方、世界が日一日と不安の裡に沈みつゝあるを指摘し、この時に當り政府がこの転換期に處するがため國民精神總動員を強調せる次第を述べ、技術報國なる革新的思想が澎湃として各方面に起り、時局對策機關の設置が今やその實現を見んとしてある。學會はその本來の使命に立脚して時局に善處するため會員各位の一致協力を熱望して止まな

い次第であると、その抱負の一端を述べて着席す。

最後に新井副會長の指名により工政會理事松永工氏起つて、總會に於ける會長の講演が既に充分云はんとする所を盡してゐると冒頭し次の如く語る。即ち戦争に於て土木技術の重且大なる事は言を俟たぬ所で、陸軍に於ける各兵科は全部 Civil Engineerig であると云つても過言でないとし、工政會の一員として三代の内閣に仕へて來た経過より、文官任用令の改正なる

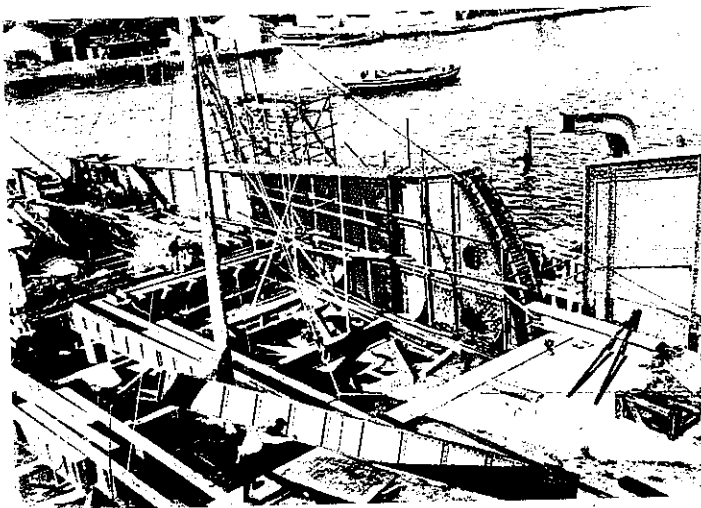
根本問題が今日の近衛内閣によつて取り上げられたことは一大進歩であるとし、官吏制度の改革、國家試験による資格の統一、人事の問題等の極めて現下の注目の焦點なる諸問題を論じ、これ等が近き將來に於て何等かの形に於て實現するであらうと云ふ結論を以つて着席さる。終つて午後8時極めて有意義にこの有志晩餐會を閉ぢた。

鉄桁架設中の小松川橋



(時報欄参照)

工事進捗せる勝鬨橋



現在中央可動径間の架設工事中、可動葉は2葉シカゴ型跳開橋(幅員22m)、中央純径間は44m、各葉は廻転軸より尖端まで25.8m、動力は各橋脚に125馬力直流モーター2基宛、本年10月頃は運転可能の見込。

會 告

図書室及娛樂室御利用に就て

本會所有の図書及雑誌は本會図書室に備付けてありますから、下記時間内御随意に御閲覧下さい。尙娛樂室には碁、將棋盤を備付けてありますから御利用を御願ひ致します。

自9月1日至12月28日 自午前9時至午後8時、 自7月21日至8月31日 及土曜日 自午前9時至午後4時、
自1月4日至7月20日

但し 日曜日及祭日休。

図書御寄贈の御願ひ

本會は本會所有の図書雑誌を整理し、図書室を設備致しました、又新に本會誌に新刊紹介欄を設け、新刊書の内容を紹介する事に致しましたから、會員の著書其の他図書雑誌は大小に拘らず學會宛御寄贈下さる様御願ひ致します。

徽章佩用に就て

本會の徽章は一般會員の方々に必ず佩用して頂く事に致してをります。講演會、見學會其の他事務所御利用には徽章佩用を必要としますから、未だ佩用せられない方は至急御申出下さい。

1. 徽章の寸法 径 14mm
2. 品種 銀地金文字浮出し
3. 種類 詰襟服用と背廣服用の別あり
4. 實費 金 50 錢 (郵送の場合は外に書留郵便料 1 個に付金 14 錢を要す)



(實物大)

寄稿に関する注意

1. 用紙 成るべく本會の原稿用紙を使用され度し。原稿用紙は御請求次第御送り致します。
 2. 頁數 頁數は本會の原稿用紙 180 枚（本會誌 30 頁）以内とされ度し。若し前記頁數を超過する場合は登載をお断りすることがあります。
 3. 文体 文体は文意的口語体とす。本文に重要な関係のない前置、挨拶等は省く事。この方針に基き適當に字句の修整、短縮を行ふことがありますから御了承あり度し。
 4. 書体 横書とし、假名は平假名、數字は算用數字、ローマ字は文部省制定ローマ字を使用され度し。歐字は特に明瞭に認められ度し。例へば n と u , u と v , r と o , a と α , r と γ , d と δ , その他 C と c , K と k , O と o 等頭字と小字とを判然たらしむる事。
 5. 數字名數 數字は 3 桁毎に間隔をあける事名數は次の如く書き括弧内の如く書くを避けること。
例へば
35 錢（三十五錢）、13.56 円（十三圓五十六錢）、1~4 時間（一時間乃至四時間）、
88326 t（八萬八千三百二十六噸）、昭. 13. 1. 1.（昭和十三年一月一日）、
m（米）、 m^3 （立方米）、kg（珔）、83.4 尺（八丈三尺四寸）
 6. 用語 用語は本會制定用語に依られ度し。（本會制定用語は本會発行の土木工學用語集参照）。
コンクリートは片假名で記し漢字を用ひざること。
 7. 図表 (1) 図表は図-1、表-1. 等と書き図表題を記すこと。
(2) 複雑なる表の如きは成るべくグラフにて示す事。
(3) 図面はその縮寫し得る様にトレーシングペーパー、オイルペーパー、トレーシングクロス等とすること。
(4) 図表は凡て墨色を用ひインキ類或は採色を施さざる事。
(5) 方眼紙は青翼のものを用ひ（黄色、赤色の紙は使用せざる事）縦横線を必要とする部分には豫め墨線にて之を描き置くこと。
(6) 図表の文字、數字は特に大きく書かれ度し（縮寫の標準は 1/2~1/5 程度を以て縮寫後の文字の大きさを約 2mm 程度となる様され度し）。
(7) 図表類は製版の都合上かなり汚損するものと豫め御含み下され度し。
 8. 寫眞 寫眞は特に明瞭なるものを送られ度し。
 9. 其他 (1) 論說報告は邦文に限る。
(2) 論說報告には必ず冒頭に英文表題及邦文要旨並に著者の職名及勤務所名を添附され度し。
- 附記 (1) 彙報、時報、抄録及工事寫眞にして掲載せる分には薄謝を呈します。
(2) 講演、論說報告の各欄に掲載の分には抜刷 30 部を寄稿者に贈呈致します。尙 30 部以上御希望の向には豫め御通知ある場合に限り實費にて御要求に応じます。

會 告

昭和 12 年度事業報告並に決算報告

昭和 12 年度事業報告

理事	大河戸宗治	同	辰馬録藏
同	新井榮吉	同	宮本武之輔
同	金子源一郎	同	關信雄
同	沼田政矩	同	榎木寛之

昭和 12 年度事業概要下記の通り報告す。

1. 會 合

昭和 12 年 2 月 15 日午後 5 時より東京市麹町區丸ノ内 3 丁目 4 番地帝國鐵道協會に於て通常總會を開く出席者 94 名にして會長井上秀二君議長席に着き事業報告、決算報告及役員選挙の結果を報告し次で昭和 11 年度土木賞牌の贈呈あり、終つて會長の講演ありたり。

前記以外本年度中に於ける諸會合は常議員會 14 回、理事會 23 回、通俗講演及映畫會 5 回、年次學術講演會 1 回、土木學會防空施設研究委員會 10 回、オリンピック大會土木施設調査委員會 4 回、土木技術者相互規約調査委員會 3 回、土木學會文化映畫委員會 5 回、土木學會企畫委員會 6 回、土木學會財政調査委員會 6 回、會誌編輯委員會 12 回、抄録打合會 12 回、土木學會用語調査常置委員會 7 回、土木學會コンクリート調査委員會 7 回、築橋示方書調査委員會 14 回、請負工事標準契約書調査委員會 9 回、杭の支持力公式調査委員會 4 回、地下構造物に於ける鋼材節約調査委員會 3 回、行政機構改正調査委員會 4 回、土木土法案調査委員會 2 回、東亞調査委員會 1 回なり。

2. 役員改選並に理事選任及部長就任

昭和 12 年 2 月 3 日定款第 22 條に依り會長井上秀二君、副會長平井喜久松君、常議員内田莊一君、小野基樹君、加藤貢君、藤井眞透君、堀越清六君、宮長平作君、山田隆二君退任並に萩原俊一君、平山復二郎君辭任に付定款第 18 條、第 21 條及規則第 15 條に依り會員の投票を以て選挙を行ひ當選したる役員氏名下の如し。

會長	大河戸宗治君			
副會長	新井榮吉君			
常議員	阿曾沼均君	淺間逸雄君	海老幸美君	河西定雄君
	金子源一郎君	榎木寛之君	久保田正雄君	高橋甚也君
	中村光四郎君	森田三郎君	小澤久太郎君	小宅習吉君

昭和 12 年 2 月 19 日定款第 19 條に依り常議員會に於て理事 6 名の互選を行ひ當選したる理事氏名下の如し。

理事	宮本武之輔君	金子源一郎君	關信雄君	沼田政矩君
	榎木寛之君	後藤宇太郎君		

昭和 12 年 2 月 19 日規則第 23 條に依り選任せられたる各部の部長氏名下の如し。

總務部長	宮本武之輔君	經理部長	金子源一郎君	編輯部長	關信雄君
調査部長	沼田政矩君	法制部長	榎木寛之君	東亞部長	後藤宇太郎君

昭和 12 年 5 月 17 日菊池英彦君は常議員を辭任せり。

昭和 12 年 7 月 19 日後藤宇太郎君は理事及常議員を辭任せり。

昭和 12 年 9 月 21 日東亜部長後藤宇太郎君は辭任し後任として就任せられたる部長氏名下の如し。

東亜部長（兼任） 宮本武之輔君

昭和 12 年 11 月 6 日常議員久保田正雄君は逝去せられたり。

3. 委員會の設置並に委員の依囑及各種委員會の經過

(1) 委員會の設置及委員依囑 昭和 12 年 2 月防空施設研究會本會選出委員に次の諸君を依囑せり。

山口 昇君 福田武雄君 森田三郎君 中村光四郎君

昭和 12 年 2 月土木學會防空施設研究委員會を設置し委員長及委員に左の諸君を依囑せり。

委員長 眞田秀吉君

委員 淺間逸雄君 今井 周君 内田莊一君 岡田信次君 岡部二郎君 鎌田銓一君

河口協介君 河西定雄君 菊池 明君 藏重長男君 櫻井英記君 田中 豐君 高橋三郎君

高橋甚也君 中村光四郎君 福田武雄君 森田三郎君 山口 昇君 山下清吉君 町田 保君

（幹事）

昭和 12 年 2 月第 1 回年次學術講演會委員會委員長に關西支部長高西敬義君を依囑せり。

昭和 12 年 2 月土木學會コンクリート調査委員會委員長大河戸宗治君は會長に就任せられたるに依り後任に藤井眞透君を依囑せり。

昭和 12 年 2 月オリンピック大會土木施設調査委員會を設置し委員長及委員に次の諸君を依囑せり。

委員長 岡野 昇君

委員 井上隆根君 衣斐清香君 沖鹽政次君 金森誠之君 黒田靜夫君 佐藤利恭君

高橋甚也君 藤井眞透君 古川淳三君 磯谷道一君（幹事）

昭和 12 年 2 月世界動力會議大堰堤國際委員會日本國內委員會本會選出委員中山秀三郎君逝去せられたるに依り後任に新井榮吉君を依囑せり。

昭和 12 年 2 月會誌編輯委員會昭和 12 年度委員長及委員に次の諸君を依囑せり。

委員長 關 信雄君

委員 伊藤 信君 稻葉通彦君 大岡禮三君 大川一郎君 太田尾廣治君（幹事）

岡崎三吉君 菊池 明君 野坂孝忠君（幹事） 廣瀬孝六郎君 安宅 勝君

昭和 12 年 3 月土木土法案調査委員會幹事に野原眞孝君を依囑せり。

昭和 12 年 3 月行政機構改正調査委員會委員に山崎匡輔君、奥田秋夫君（幹事）を依囑せり。

昭和 12 年 3 月鋼橋示方書調査委員會委員に奥田秋夫君を依囑せり。

昭和 12 年 3 月土木學會コンクリート調査委員會委員に野口誠君を依囑せり。

昭和 12 年 3 月土木學會企畫委員會を設置し委員長及委員に次の諸君を依囑せり。

委員長 米元晋一君

委員 阿曾沼均君 青木楠男君 淺間逸雄君 磯谷道一君 稻葉通彦君 今井四郎君

小澤久太郎君 小宅習吉君 岡部二郎君 奥田秋夫君 加藤伴平君 河西定雄君 小林 肇君

佐野俊男君 笹森 巽君 須之内文雄君 高橋嘉一郎君 高橋三郎君 德善義光君 服部高景君

町田 保君 松井達雄君 松田勘次郎君 最上武雄君 山下輝夫君 山岡包郎君

昭和 12 年 3 月土木學會財政調査委員會委員に萩原俊一君を依囑せり。

昭和 12 年 3 月土木學會用語調査常置委員會委員に板倉誠君を依囑せり。

昭和 12 年 3 月請負工事標準契約書調査委員會委員に宮長平作君を依囑せり。

昭和 12 年 3 月土木技術者相互規約調査委員會委員（幹事）に村上保則君を依囑せり。

昭和 12 年 3 月杭の支持力公式調査委員會委員に黒田靜夫君、長谷川章平君、安宅勝君を依囑せり。

昭和 12 年 4 月土木學會文化映畫委員會委員に藤森謙一君を依囑せり。

昭和 12 年 4 月土木學會防空施設研究委員會委員に岩崎富久君、瀧尾達也君、稻葉權兵衛君（幹事）、松井達夫君

(幹事)を依頼せり。

昭和12年4月土木学会財政調査委員会委員に尾崎義一君、佐土原勳君、堀信一君を依頼せり。

昭和12年4月土木学会法案調査委員会委員に田中豊君、宮長平作君を依頼せり。

昭和12年4月土木学会企畫委員会委員に五十嵐醇三君、石田武雄君、糸川一郎君、太田尾廣治君、瀧山養君、野坂孝忠君を依頼せり。

昭和12年4月土木学会文化映畫委員会委員に金子征君を依頼せり。

昭和12年5月オリンピック大會土木施設調査委員会委員に今井哲君、岡田信次君、五十嵐醇三君(幹事)を依頼せり。

昭和12年5月土木学会コンクリート調査委員会委員に佐藤寛政君を依頼せり。

昭和12年5月鋼橋示方書調査委員会委員に稻葉權兵衛君を依頼せり。

昭和12年6月土木学会財政調査委員会委員に宮長平作君を依頼せり。

昭和12年6月土木学会文化映畫委員会委員に五十嵐醇三君を依頼せり。

昭和12年6月オリンピック大會土木施設調査委員会委員に岩澤忠恭君を依頼せり。

昭和12年6月鋼橋示方書調査委員会幹事に齋藤義治君を依頼せり。

昭和12年7月土木学会財政調査委員会委員に井上隆根君、沖塩政次君、河口協介君、高橋嘉一郎君を依頼せり。

昭和12年9月地下構造物に於ける鋼材節約調査委員会を設置し委員長及委員に次の諸君を依頼せり。

委員長 辰馬鎌藏君

委員 安倍邦衛君 大井上前雄君 鴨下武君 菊池明君 鈴木清一君 竹股一郎君

田中豊君 堀信一君 水谷當起君 山口昇君

昭和12年10月日本工学会メートル法専用實施促進委員会本會選出委員に青木樞男君、山崎匡輔君を依頼せり。

昭和12年11月地下構造物に於ける鋼材節約調査委員会委員に佐土原勳君、平山復二郎君、山本亨君を依頼せり。

昭和12年12月土木学会防空施設研究委員会委員に鴨下武君、藤後定雄君、中澤政次君、水谷當起君を依頼せり。

昭和12年12月地下構造物に於ける鋼材節約調査委員会幹事に小澤久太郎君、瀧山養君を依頼せり。

(2) 委員会の経過 土木学会企畫委員会：学会の活動を一層旺盛ならしむるため有効適切なる諸計畫案を研究提案せり。

土木技術者相互規約調査委員会：我國に於て未だ技術者相互の規約なきを遺憾とし之が調査研究のため委員会を重ねること8回漸く土木技術家の信條及實踐要項の草案を得たり。

土木学会文化映畫委員会：土木技術の紹介普及並に文化進展に重要な點を一般に認識せしめ進んでは本邦土木技術を世界に紹介の目的にて映畫の製作に就き調査研究中なり。

オリンピック大會土木施設調査委員会：第12回オリンピック東京大會に於ける施設の内外土木技術に關する事項に就き調査研究を進め別項の如き建議又は意見書を提出し引続き調査研究中なり。

土木学会防空施設研究委員会：東部防衛司令部と連絡を図り都市防空施設に關し調査研究をなし防火、消火對策及給水對策、一般避難計畫に就き成案を得て之を發表し引続き調査研究中なり。

土木学会財政調査委員会：本會基金の運用並に収入増加其の他の財政問題に關し極めて有効適切なる建築をなせり。

會誌編輯委員会：専ら土木学会誌の編集に當り傍内容の改善研究をなしつつあり。

土木学会コンクリート調査委員会：從來の鉄筋コンクリート標準示方書及解説の改訂に就き引続き調査研究中なり。

鋼橋示方書調査委員会：時代に適應せる鋼橋の設計並に製作の示方書を作成すべく引続き調査研究中なり。

杭の支持力公式調査委員会：本邦土木工事の重要な杭打ち工事に對し支持力を推定すべき公式なきを遺憾とし之が公式を制定すべく引続き調査研究中なり。

土木学会用語調査常置委員会：故廣井工学博士記念事業會編纂に係る英和工学辭典の改訂に就き調査研究中なり。

請負工事標準契約書調査委員会：請負工事に關する標準契約書制定の必要を認め之が調査研究中なり。

地下構造物に於ける鋼材節約調査委員会：地下鐵道工事に就き調査研究中なり。

行政機構改正調査委員会：現在の行政機構に關し改正すべき諸點を調査研究中なり。

土木土法案調査委員会：土木技術専門家のみに依る土木土法制定に關し調査研究中なり。

東亞調査委員会：東亞各國に於ける學術規格其の他に就き調査中なり。

東亞連絡委員会：東亞各國よりの留學生の誘致及指導、歸國後の連絡後援其の他に就き連絡協力に努めつゝあり。

4. 支部設置

昭和 12 年 6 月 23 日 常議員會に於て土木学会東北支部を仙臺市に設置することを承認し、昭和 12 年 8 月 13 日 初次支部長に鶴見一之君當選せり。

昭和 12 年 10 月 18 日 常議員會に於て土木学会北海道支部を札幌市に設置することを承認し、昭和 12 年 12 月 23 日 初次支部長に吉町太郎一君當選せり。

5. 建議事項

昭和 12 年 5 月 15 日 第 12 回オリンピック東京大會々場の敷地を速かに決定せられむことを文部大臣並に第 12 回オリンピック東京大會組織委員會會長及内閣紀元 2600 年祝典事務局長に建議し併て第 12 回オリンピック東京大會組織委員會事務局長に對し盡力を依頼せり。

昭和 12 年 6 月 22 日 第 12 回オリンピック東京大會構築に關する委員會の構成に土木技術家を參加せしめられむことを文部大臣並に第 12 回オリンピック東京大會組織委員會々長に建議し併て第 12 回オリンピック東京大會組織委員會事務局長に對し盡力を依頼せり。

昭和 12 年 6 月 22 日 オリンピック・マラソンコースとして新京濱國道を最適當なりと認め意見書を文部大臣並に第 12 回オリンピック東京大會組織委員會々長及同事務局長に提出し併て内務省土木局長、同東京土木出張所長、同横濱土木出張所長及東京市長に對し右コース確定の上は適當の措置を講ぜられむことを依頼せり。

昭和 12 年 6 月 26 日 技術出身の企畫廳調査官を任命せられむことを内閣總理大臣並に各國務大臣及内閣書記官長、法制局長官に建議せり。

昭和 12 年 7 月 2 日 明治神宮外苑競技場の代用競技場敷地として板橋區内の場所を最適なりと認め意見書を文部大臣並に第 12 回オリンピック東京大會組織委員會々長及同事務局長に提出せり。

昭和 12 年 7 月 20 日 日本萬國博覽會の會場計畫委員に土木技術者數名を追加任命せられむことを日本萬國博覽會事務局會長及同事務總長に建議し併て東京市長及東京市會議長に對し考慮方を依頼せり。

昭和 12 年 7 月 20 日 日本萬國博覽會々場内に土木館を特設せられむことを日本萬國博覽會事務局會長及同事務總長に建議し併て東京市長及東京市會議長に對し考慮方を依頼せり。

昭和 12 年 7 月 28 日 關東局旅順工科大学内に土木工学科を速かに設置せられむことを内閣總理大臣並に文部、拓務、大藏各大臣及關東局總長、對滿事務局總裁、企畫廳總裁に 3 度建議し併て旅順工科大学長及同大学商議員に對し配慮方を依頼せり。

昭和 12 年 7 月 28 日 土木技術界の勳勞者中より貴族院勅任議員を詮衡奏請せられむことを内閣總理大臣及各國務大臣に 3 度建議し併て關係樞密顧問官並に貴族院正副議長及關係貴族院議員に對し考慮方を依頼せり。

6. 基金其他寄附

昭和 12 年 1 月 25 日 會員工学博士岡崎文吉君より記念基金として金 1 000 円を寄附せられたり。

昭和 12 年 5 月 17 日 東亜鉄道研究会より事業資金として金 7 000 円を寄附せられたり。

昭和 12 年 6 月 16 日古市六三君より前會長男爵古市公威君の胸像を寄贈せられたり。

7. 會誌其の他の發行

昭和 12 年度中に於て土木學會誌第 23 卷自第 1 號至第 12 號並に第 1 回年次學術講演會講演集、鉄筋コンクリート標準示方書及解説、土木工学用語集、會員名簿を發行せり。

8. 登記並に申請事項

昭和 12 年 2 月 15 日の通常總會に於ける理事の改選及資産の總額金 123 652.19 円 と変更の件は同年 2 月 26 日其の登記を了せり。

昭和 12 年 7 月 8 日 土木學會誌を第 3 種郵便物として郵送の認可申請したところ同年 9 月 10 日第 23 卷第 9 號より第 3 種郵便物に認可せられたり。

9. 會費負擔免除

昭和 12 年 8 月 23 日役員會に於て支那事變のため応召せられたる會員、准員、學生員に對し出征中會費の負擔を免除することを決議し之を通常總會に附議することとせり。

10. 前會長の薨去

昭和 12 年 9 月 30 日前會長工学博士原田貞介君薨去せらる、本會は弔詞及花環を靈前に呈し恭しく哀悼の意を表せり。

11. 土木賞牌贈呈

土木學會誌第 22 卷第 11 號に登載せる會員工学博士三瀬幸三郎君著「連続拱橋の解法」と題する論文に對し昭和 11 年度土木賞牌を贈呈せり。

12. 視察見学旅行

昭和 12 年 5 月 8、9 兩日に互り第 26 回視察見学旅行として草津一泊關東水力電気株式会社佐久發電所、群馬水電株式会社原町發電所工事、東信電気株式会社田代貯水池、碓氷國道、九十九川災害復舊工事並に鬼押出の奇岩、長谷川養狐所等の視察見学を行ひ會員 104 名の参加ありたり。

13. 關西支部事業の概要

昭和 12 年度中關西支部に於ける諸會合は大會 1 回、役員會 11 回、通俗講演會 1 回、巡回講演會 1 回、座談會及晚餐會 2 回、見學會 1 回、第 1 次年次學術講演委員會 2 回なり。

14. 東北支部事業の概要

昭和 12 年度中東北支部に於ける諸會合は役員會 2 回、發會式大會幹事會 1 回、同準備打合會 1 回、同實行委員會 1 回、同大會 1 回なり。

15. 會員數

昭和 12 年度中の入會者は會員 253 名（内准員より転格したる者 172 名）、准員 623 名（内學生員より転格したる者 236 名）、學生員 351 名、特別員 19 名、賛助員 1 名合計 1 247 名にして死亡者は會員 20 名、准員 2 名、學生員 2 名合計 48 名、退會者は會員 48 名、准員 71 名、學生員 1 名合計 120 名なり。

而して昭和 12 年 12 月末日に於ける現在數は會員 2 974 名、准員 3 043 名、學生員 666 名、特別員 22 名、賛助員 21 名合計 6 726 名なり。

昭和 12 年度決算報告 (自昭和 12 年 1 月 1 日
至 同 年 12 月 31 日)

理事 大河戸宗治 同辰馬鎌藏
同新井榮吉 同宮本武之輔
同金子源一 同關 信雄
同沼田政矩 同樫木寛之

1. 經常部

収入之部

1. 會費	55,588.15
1. 入會金	1,180.00
1. 利子及雜收入	14,402.73
合 計	71,170.88

支出之部

1. 事務費	23,566.33
1. 會誌費	32,742.40
1. 講演並旅行諸費	485.58
1. 工學會費	200.00
1. 支部交付金	2,450.00
1. 年次講演大會費	1,716.05
1. 大塚堤國際委員會 日本國內委員會分擔金	763.56
1. 土木賞牌費	60.22
1. 基金へ戻入	4,186.74
合 計	71,170.88

2. 臨時部

収入之部

1. 滞納會費整理金受入	6,200.78
1. 第1回學術講演會講演集代及 外諸刊行物代過年度收入金	9,860.95
合 計	16,061.73

支出之部

1. 調査及諸會費	2,770.58
1. 囑託報酬其他	2,063.99
1. 諸雜費	690.74
1. 古市男爵記念 事業寄附金	1,000.00
1. 第1回學術講演會 講演集刊行諸費其他	3,683.21
1. 基金及事業資金へ戻入	5,848.21
合 計	16,061.73

3. 基金

収入之部

1. 利子收入	4,834.70
1. 寄附金收入	1,000.00
1. 會費一時納付金收入	240.00
1. 經常部より戻入	4,186.74
1. 臨時部より戻入	4,792.60
1. 前年度繰越金	116,364.16
合 計	131,418.20

支出之部

1. 經常部へ繰入	4,569.71
1. 翌年度へ繰越金	126,848.49
合 計	131,418.20

4. 專業資金

収入之部

1. 寄附金收入	7,300.00
1. 英和工學辭典印稅收入	75.00
1. 臨時部より戻入	1,055.61
合 計	8,430.61

支出之部

1. 翌年度へ繰越金	8,430.61
------------	----------

5. 假受金

收入之部

1. 假受金 29.33 円

支出之部

1. 翌年度へ繰越金 29.33 円

6. 貸借対照表 (昭和12年12月31日現在)

貸方之部 (負債)

1. 基金 126,848.49 円
 1. 事業資金 8,430.61
 1. 假受金 29.33
 1. 翌年度へ繰越金 12,701.97
 合 計 148,010.40

借方之部 (資産)

1. 有價証券 85,024.07 円
 1. 信託預金 22,000.00
 1. 郵便貯金 4,992.12
 1. 振替貯金 18,079.65
 1. 銀行預金 4,477.89
 1. 會費其他未收金 8,873.19
 1. 図書及備品 3,828.78
 1. 現金 734.70
 合 計 148,010.40

7. 財産目録

貸借対照表資産の部と同一に付省略す。

8. 基金内訳

故古市公威兩博士記念基金	19,625.35 円	故岡崎芳樹博士記念基金	2,037.77 円
故神野志雄博士記念基金	16,939.76	故太田圓三君記念基金	2,878.49
故白石直治博士記念基金	1,942.38	故坂本雅雄君記念基金	541.14
故山崎鉦次郎博士記念基金	3,471.45	故川上浩二郎博士記念基金	1,045.60
故原田貞介博士記念基金	540.00	故古市公威博士土木賞牌基金	507.45
故廣井勇博士土木賞牌基金	7,841.53	故來島良亮君土木賞牌基金	503.50
故廣井勇博士記念基金	1,227.31	故中山秀三郎博士記念基金	2,000.00
小川梅三郎博士還暦記念基金	611.30	故中山秀三郎博士土木賞牌基金	500.00
故富田保一郎博士記念基金	7,503.96	岡崎文吉博士記念基金	1,000.00
故石黒五十二博士記念基金	5,203.86	積立基金	24,093.75
故近藤虎五郎博士記念基金	3,560.73	關西支部維持基金	22,000.00
故中島銳治博士記念基金	1,273.16	合 計	126,848.49
故阪田貞明君記念基金			

會 告

昭和 13 年度土木學會役員氏名報告

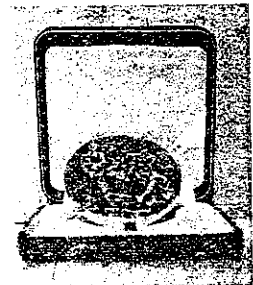
會 長	工 学 士	辰 馬 鎌 藏 君	(新 任)
副 會 長	工 学 博 士	新 井 榮 吉 君	(留 任)
同 議 員	工 学 士	平 山 復 二 郎 君	(新 任)
常 同 議 員	工 学 士	青 木 保 雄 君	(新 任)
同 同 議 員	工 学 士	阿 會 沼 均 君	(留 任)
同 同 議 員	工 学 士	淺 間 逸 雄 君	(留 任)
同 同 議 員	工 学 士	伊 藤 剛 君	(新 任)
同 同 議 員	工 学 士	海 老 季 美 君	(留 任)
同 同 議 員	工 学 士	岡 田 信 次 君	(新 任)
同 同 議 員	工 学 士	金 子 源 一 郎 君	(留 任)
同 同 議 員	工 学 士	榎 木 寬 裕 之 君	(留 任)
同 同 議 員	工 学 士	川 口 裕 康 君	(新 任)
同 同 議 員	工 学 士	河 西 定 雄 君	(留 任)
同 同 議 員	工 学 士	菊 池 明 君	(新 任)
同 同 議 員	工 学 士	佐 野 俊 男 君	(新 任)
同 同 議 員	工 学 士	高 橋 嘉 一 郎 君	(新 任)
同 同 議 員	工 学 士	高 橋 三 郎 君	(新 任)
同 同 議 員	工 学 士	高 橋 甚 也 君	(留 任)
同 同 議 員	工 学 博 士	中 村 光 四 郎 君	(留 任)
同 同 議 員	工 学 士	松 田 全 弘 君	(新 任)
同 同 議 員	工 学 士	村 橋 恆 造 君	(新 任)
同 同 議 員	工 学 士	森 田 三 郎 君	(留 任)
同 同 議 員	工 学 士	山 崎 匡 輔 君	(新 任)

昭和 12 年度土木賞牌受賞者報告

土木學會誌第 23 卷第 9 號所載

清水港岸壁の復舊並に補強工事に就て

會 員 工 学 士 鮫 島 茂 君
同 工 学 士 黒 田 靜 夫 君



會 告

本會常議員會に於て決定したる土木技術者の信條及實踐要綱次の如し。

土木技術者の信條及實踐要綱

作製の主旨及方針

本草案は次の3項目の主旨を体して現下の我國情に適合する土木技術者の信條及實踐要綱を作製したるものとす。

- (1) 土木技術者の使命の確認
- (2) 土木技術者の品位の向上
- (3) 土木技術者の權威の保持

土木技術者の信條作製の主旨

現今世界の大勢を按ずるに歐洲大戰によりて從來の均勢を破られたる世界は政治、思想、經濟、産業等の各方面に互りて動搖と混亂との渦中に在りと雖も其の間に在りて新興民族發展の底流歴然たるものあるを否み難し國運の伸暢と民族の發展とは各國民、各民族に課せられたる重大課題なりとす特に現下の非常時局に際會したる我國は國民の全機能を擧げて時難の克服に膺らざる可らず即ち我等は人類文化の創造に貢獻すると同時に凡ての建設事業、經濟工作の先驅たり根幹たるべき貴き使命を有する土木技術者として其の立場を明確にし其の識見を新にして相率ひて斯界の進歩向上に努め以て國家社會に貢獻するの急務なるを痛感して已ます。

因て其の信條を成文となすこと次の如し。

土木技術者の信條

1. 土木技術者は國運の進展並に人類の福祉増進に貢獻すべし。
2. 土木技術者は技術の進歩向上に努め汎く其の眞價を發揮すべし。
3. 土木技術者は常に眞摯なる態度を持し徳義と名譽とを重んずべし。

說 明

- (1) 技術者が技術を通じ國家社會に貢獻すべき義務を述べたるものなり。
- (2) 技術者の技術者としての義務と使命とを述べたるものなり。
- (3) 技術者の徳義と名譽とに関する戒を述べたるものなり。

土木技術者の實踐要綱

實踐要綱作製の原則

土木技術者の信條を基本として之が實踐要綱を定めたるものとす。

1. 土木技術者は自己の専門的知識及經驗を以て國家的竝に公共的諸問題に對し積極的に社會に奉仕すべし。
2. 土木技術者は学理、工法の研究に勵み進んで其の結果を公表し以て技術界に貢獻すべし。
3. 土木技術者は苟も國家の發展國民の福利に背戾するが如き事業は之を企圖すべからず。

4. 土木技術者は其の關係する事業の性質上特に公正を持し清廉を尙び苟も社會の疑惑を招くが如き行爲あるべからず。
5. 土木技術者は工事の設計及施工につき經費節約或は其の他の事情に捉はれ爲に從業者並に公衆に危險を及ぼすが如きことなきを要す。
6. 土木技術者は個人的利害の爲に其の信念を曲げ或は技術者全般の名譽を失墜するが如き行爲あるべからず。
7. 土木技術者は自己の權威と正當なる價値を毀損せざる様注意すべし。
8. 土木技術者は自己の人格と知識經驗とにより確信ある技術の指導に努む可し。
9. 土木技術者は其の關係する事業に萬一違法に屬するものあるを認めたる時は其の匡正に努むべし。
10. 土木技術者は其の内容疑しき事業に關係し又は自己の名義を使用せしむる等の事なきを要す。
11. 土木技術者は施工に忠實にして事業者の期待に背かざらんことを要す。

備 考

本信條及實踐要綱を以て相互規約に代ゆるものとす。

伊能忠敬翁遺物保存館建設費寄附金

昨年 9 月以降に於て下記の通り御寄附ありましたので寄附者名簿を添へ伊能忠敬翁功績顯彰會に送金致しました、御賛同下さいました諸君に本誌を通じ厚く御禮申上ます。

土 木 学 會

寄 附 者 芳 名

1 円 榎木 寛之君	1 円 高木 實君	1 円 瀧山 與君
1 円 戸谷 亥名藏君	1 円 原口 忠次郎君	1 円 田井 九一君
1 円 高橋 甚也君	1 円 武田 平七君	1 円 西畑 常君
3 円 横山 喬君		

土木學會規則改正

昭和 13 年 2 月 14 日の通常總會に於て土木學會規則第 4 條第 3 項の改正を次の如く決議せり。

「代表者の員數は 1 級 10 人以内、2 級 7 人以内、3 級 3 人以内とす」

會 告

本會々員にて今次の事変に際して出征せられる方は出征中會費免除の手續きを採りますから至急當
 學會まで御通告下さい。本會は下記応召會員各位の武運長久を祈る。

応 召 會 員 氏 名

(會 員)

青木信夫君	安藤四良君	井上清太郎君	飯田房太郎君	石川與一君
浦田清志君	梅澤景秀君	尾鏡峰夫君	大島省三郎君	奥田秋夫君
川島喜一郎君	國澤舜二君	倉田一郎君	小谷金馬君	後藤禎藏君
齋藤四郎君	坂野昇君	篠原武司君	清水雄吉君	瀬能三郎君
田中孝君	富樫凱一君	長友一二君	内藤範壽君	丹羽良彦君
山岸誠君				

(准 員)

伊藤一郎君	伊藤信男君	井内萬治君	井上忠熊君	池戸貫三君
石尾良一君	石倉寛治君	板垣正男君	一之瀬喜登君	今川周一君
乾市太郎君	宇佐美勇司君	宇田倉三君	上原要三郎君	内田襄君
遠藤作次君	小澤辰喜君	大竹源太郎君	大槻眞弘君	大村繁三郎君
大森蕃二君	岡村貞男君	岡本恒薫君	沖田二郎君	奥山幸雄君
鹿熊理三君	片岡市郎君	金澤義之介君	金子輝男君	金子軍作君
鎌田昌俊君	蒲原正吉君	神森五郎君	川勝常次郎君	川崎毅三郎君
河原忠次君	河村莊君	龜甲谷貞三君	岸忠男君	北村英太郎君
久保正君	熊耳爲男君	桑崎正範君	桑原於菟葉君	小高與一郎君
小土井善雄君	小林嘉道君	小牧純尙君	近藤愛知君	佐伯秀雄君
佐藤源仁君	佐藤眞一君	里吉忠典君	澤田克己君	澤田正一君
澤田賢君	設樂藤雄君	四十萬水祐君	清水清三君	須藤正利君
鈴木駿一郎君	清野一水君	田淵榮治君	田村勳君	高井壽吉君
高島三郎君	高野義雄君	高橋咲保君	高橋正一君	玉井茂男君
筑瀬懋君	月郁徳彌君	寺田功君	豊田賢君	中津海俊雄君
中村正君	中村春樹君	中村吉光君	永井良男君	永島徳君
能登富五郎君	乘富士郎君	平井教君	平野勳君	廣田賢治君
福島公三君	福島保君	福島峰夫君	藤田三士君	藤森謙一君
藤本輝文君	別所正夫君	堀修一君	堀内恭一君	本徳壽雄君
増田正次君	松垣光君	松橋作藏君	松田昌治君	松本敏雄君
丸山和太郎君	三好雄次郎君	三輪銀吾君	村井義英君	安田恒夫君
山内新之助君	山岸正應君	山田安綱君	山中保君	山本三郎君
山本保君	山本芳男君	湯澤貞夫君	吉田時二君	吉田浩君
和田豊君	渡邊有友君	渡邊喜太郎君		

(学 生 員)

浦部千尋君	小川九十九君	金出地史朗君	北條稔君	宮崎義成君
森芳太郎君	米澤佳年君	和田正一君		

昭和 13 年 2 月 14 日

會 告

御住所不明會員に就て御願ひ

下記諸君は転居先の御通知がないため、會誌の配布を始め、その他の諸通信が出来ませんのは誠に遺憾であります。どうぞ知人の方は御手数恐れ入りますが、御本人に御注意下さるか本會にその住所又は勤務先を御知らせ願ひます。

會 員		准 員	
荒川 參太郎君	稻 葉 彌 吉君	木 村 貫 一 郎君	小 林 源 次君
轟 増 能君	山 本 保 之 助君		
和 泉 高 嚴君	池 田 乙 次 郎君	池 田 角 太 郎君	緒 方 政 雄君
大 森 鶴 吉君	佐 藤 興 吉君	徐 三 善君	栗 田 忠 治君
小 林 義 雄君	野 口 金 太君	關 佳 夫君	曾 我 進君
船 橋 貞 一君	高 橋 理 三 郎君	本 橋 二 郎君	吉 見 胤 隆君
中 野 順 太 郎君	難 波 壽 一君	劉 作 楨君	濱 崎 禎 四 郎君
平 本 源 太 郎君	水 原 譽 文君	宮 田 肇君	横 田 清 治君
石 原 三 郎君	齋 藤 賢 策君	多 田 安 三 郎君	

時報、會員の頁記事及工事寫眞募集

◎時報欄は下記内容の記事を掲載する事になつてゐますから適當なる記事の御投稿を御願ひ致します。

- 土木工事の計畫、設計、施工の進捗、竣功の狀況、金額等のニュース
- 土木工学界の内外学協會、調査會、委員會等の設立、調査研究事項並に報告其他會議、催物の簡單なる紹介
- 官廳、會社、公共團體の組織事業に関するニュース
- 法規、示方書、規定等の紹介

◎會員の頁は會員諸君の土木工学、土木工事、土木學會、土木技術社會に對する批判、時評、感想、希望等御發表の御利用に充てたものでありますから振つて御投稿を御願ひ致します。

◎工事中又は竣功せる工事の寫眞を募集致します。寫眞にはその工事の簡單なる説明を御記入下さい。

DOBOKU-GAKKAI-SI.

(JOURNAL OF THE CIVIL ENGINEERING SOCIETY.)

VOL. XXIV, NO. 3, MARCH. 1938.

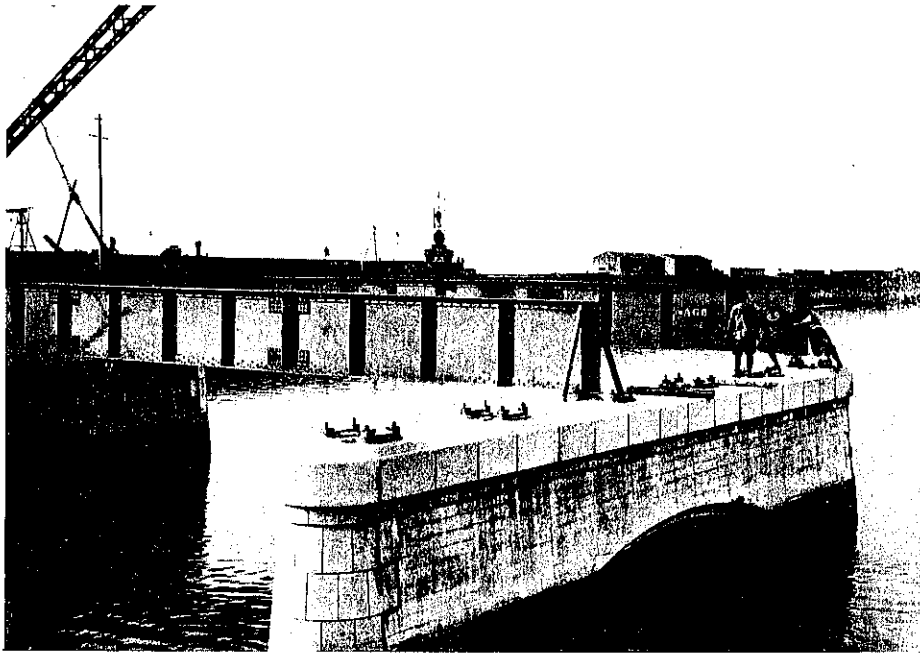
CONTENTS.

	Page
Proceedings of the Society.	25
Presidential Address.	
War and Civil Engineering.	
By <i>Sōzi Ōkawado, Dr. Eng. President.</i>	227
Papers.	
Elastic Failure of a Steel Column, Both its End fixed, under Eccentric Loads.	
By <i>Tomoyasu Yūki, C. E., Member.</i>	229
Road Curves for Vehicles running with Uniformly Varing Speed.	
By <i>Rei Etō, C. E., Member.</i>	243
Planting on Bare Areas.	
By <i>Kyōzi Naohara, B. Sc., Assoc. Member.</i>	247
Discussions.	255
Notes on Matters of Interest.	259
Abstracts of Selected Articles.	273
Current Notes.	311
Our Members Say.	315
Patent News.	319
New Publications.	321

OFFICE

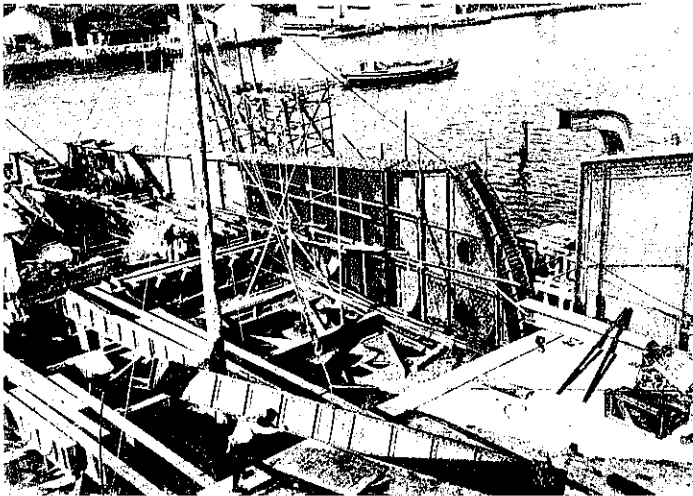
No. 6, 3-TYŌME, MARUNOUTI, KŌZIMATI-KU, TŌKYŌ, JAPAN.

鉄桁架設中の小松川橋



(時報欄参照)

工事進捗せる勝鬨橋



現在中央可動径間の架設工事中、可動葉は2葉シカゴ型跳開橋(幅員22m)、中央純径間は44m、各葉は廻転軸より尖端まで25.8m、動力は各橋脚に125馬力直流モーター2基宛、本年10月頃は運転可能の見込。